

平成17年度学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-----|----------------|-------|----|------|----|-------|---------|-------|----|-------|------|----|-----|--------|
| 学校番号 | 特5 | 学校名 | 茨城県立水戸養護学校吉沢分校 | | | | 課程 | 全日制 | | | | 学校長名 | 北山 勉 | | | |
| 教頭名 | 石塚 広道 | | | | | | | | 事務(室)長名 | 藤田 義光 | | | | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 10人 | | 養護助教諭 | 1人 | 常勤講師 | 4人 | 非常勤講師 | 1人 | 事務職員 | 1人 | 技術職員等 | 3人 | 計 | 20人 | |
| 児童生徒数 | 各学部 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | 6年 | | 合計 | | 合計クラス数 |
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | |
| | 小学部 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 4 | 1 | | | | | 7 | 3 | 5 |
| | 中学部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 高等部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 訪問教育 | | | | | | | | | | | | | | | |

2 目指す学校像

- (1) 医療的ケアの充実や緊急時における関係機関等との連携を深め、健康で安全な生活のできる学校を目指す。
- (2) 「教科学習」「生活体験を生かした学習」「自立活動を中心とした学習」の三つの教育課程を適切に編成するとともに、児童生徒一人一人に即した教育機器や教材・教具等を積極的に活用する学校を目指す。
- (3) 小学部・中学部・高等部及び分校の連携を図り、一貫性のある教育実践のできる学校を目指す。
- (4) 個別の教育支援計画や個別の指導計画に保護者の意向を生かすとともに、PTA活動により児童生徒が地域において自立と社会参加ができる学校を目指す。
- (5) 学校外への支援体制を整備し、地域において特別支援教育のセンター的役割を果たすことのできる学校を目指す。
- (6) 学校評議員の意見や学校評価等を学校経営計画に生かす学校を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|-----------------|---|--|
| 自立支援 | ・個別の教育支援計画の作成内容について、保護者の意見をどのように組み入れるか。 | ・個別の教育支援計画への共通理解や保護者の意見をどのように取り入れ内容の充実を図るか。 |
| 学習指導 (分校は指導) | ・個別の教育支援計画を踏まえて個別の指導計画を授業の中にどのように生かしていくか。 | ・個別の教育支援計画や個別の指導計画と授業との関連をどう図るか。 |
| 情報教育 | 授業におけるパソコンの活用や管理の方法等が適切か。 | ・校内LANの活用をどう図るか。児童の個人データを学校としてどう活用していくか。 |
| 生徒指導 (分校は指導) | 障害による児童の特性や実態を十分把握しているか。 | ・保健室との連携を図り、児童の健康増進や学校での安全確保をどう図っていくか。 |
| 進路指導 (分校は指導) | 保護者への進路指導についての理解啓発が十分でない。 | ・進路についての研修や進路情報の提供をどのように進めていくか。 |
| 保健安全 | 児童の健康保持や安全等に対する早期対応が十分になされているか。 | ・校外学習及び宿泊学習等において発達段階や障害等に応じた目標・内容について検討する必要がある。 |
| 本校の各学部・分校 | ・共通した教育活動において目標や内容に一貫性があるか。 | ・校外学習・宿泊学習等において発達段階や障害等に 応じた目標・内容について検討する必要がある。 |

4 中期的目標

- (1) 関係機関との連携を一層推進し、看護職員2人体制による医療的ケア実施体制の確立を図るとともに、緊急時等における学校安全体制の確立を図る。
- (2) 教科学習、生活体験を生かした学習、自立活動を中心とした各学習の指導内容・方法や留意点を明らかにするとともに、医療や福祉機関との連携を図り、教育機器や自助具及び教材・教具等の活用を推進する。
- (3) 各学部・分校の校務分掌組織による連携を図り、校外学習・宿泊学習等や進路指導において一貫した教育実践ができるようにする。
- (4) 個別の教育支援計画や個別の指導計画を保護者に提示しながら保護者の意向を生かすようにするとともに、PTA地区活動や地域の諸活動について具体的な情報を提供しながら支援の推進を図る。
- (5) 研修による教員の専門性を高めるとともに、校務分掌等による地域支援の役割分担を進め、地域への効果的な支援に努める。
- (6) 学校経営計画や学校評価について学校評議員等から具体的な意見を求め、開かれた学校づくりの推進を図る。

5 本年度の重点目標

| 重点目標 | 具体的目標 | 達成状況 |
|--|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の指導体制の強化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒等の緊急時における報告や今後の対応について、報告書等により校内組織を有効に活用し学校の安全体制の確立を図る。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画上での教育課程の見直し、及び教育機器の活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を授業に生かす研究を進めることにより、各教育課程での実施上の課題を明確にするとともに、情報機器活用を通して児童生徒の個人データ等を教育計画に生かす工夫を検討するとともに、授業における情報機器や自助具及び教材・教具等の活用の視点を取り入れた授業研究を進める。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本校（小学部・中学部・高等部）及び分校におけるの指導目標・内容の一貫性を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部・分校において共通して実施している校外学習・宿泊学習や進路指導の目標・内容の見直しを図り、一貫した教育実践ができるようにする | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を生かして地域等との連携を推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の保護者面談等を活用して、個別の教育支援計画に保護者の意向を生かすとともに、各地域の親の会等の活動の情報を提供し、P T A 地区活動の支援を推進する。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教員の特別支援教育における専門性を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内における全体研修会及び個別の教育支援計画ワーキングチームとの連携により個別の教育支援計画について専門性を高めるとともに、本校の地域に対するセンター的役割の視点から校務分掌組織のあり方について検討する。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員等の有効な活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校経営計画や学校評価について学校評議員等から具体的な意見を求め、その概要を教職員に提供し、学校経営計画や学校評価の見直しを図る。 | |